

特集 // 平成7年度 ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1. ブロックの運営動向

本年度は、当ブロックの創設満10周年に当たるため、特別に21回研究会を「創設10周年記念研究会」として、記念講演会と懇親会を開催した。当日は和野内学会長の祝辞、さらに全国各ブロックリーダー等から多数の祝辞・祝電を頂戴した。

また、第21回理事会で決議された本学会の改革案について、和野内学会長および白川リーダーから趣旨説明がなされ、ブロック会員の理解を得た。



2. ブロック研究会活動報告

(1) 第20回研究会の開催

期日：平成7年3月11日(土)

会場：道民活動センター「かでの2・7」

司会：丹治和典先生

出席者：17名

1 白川リーダー開会挨拶

2 研究発表

①「非定型業務能力の必要性とその育成フレーム」

北崎 寛 (静修短期大学)

②「現代経営学理論と「秘書」との関連性について」

佐々木邦子 (静修短期大学)

(2) 創設10周年記念第21回研究会の開催

期日：平成7年11月19日(土)

会場：道民活動センター「かでの2・7」

司会：乳井克憲先生

出席者：19名

1 白川リーダー開会挨拶・理事会報告

2 和野内学会長の祝辞

3 祝電の披露

4 記念講演

「最近のマルチメディアとネットワーク」

講師 北大大型計算機センター教授 山本 強 氏

(要旨) コンピュータリテラシーから情報リテラシーの時代に移行し、機器類は集約化小型化され操作の簡素化が進む。これらから派生する諸問題に対応する教育の内容・方法が問われている。

(質疑応答) 学校教育における情報教育の在り方、さらに教員養成や免許制度まで広範にわたり質疑応答がかわされた。

(3) 第22回研究会の開催

期日：平成8年1月31日(土)

会場：道民活動センター「かでの2・7」

司会：丹治和典先生

出席者：18名

1 白川リーダー開会挨拶・会務報告

2 研究発表

①「ビジネスにおける作成文書について」

佐藤 善也 (北海道文理科短期大学)

②「時代とともに変わる

秘書教育——秘書実

務演習オリジナルテキ

スト作成の過程から」

椿 明美 (札幌聖心

女子学院)

和田佳子 (国学院短

期大学)

③「ビジネスアウェア

ネスの研究に向けて」

乳井克憲 (静修短期

大学) (渡辺一郎記)



関東・東北ブロック



1. ブロックの運営動向

10月の研究会は自由テーマによる研究発表を中心に行われた。ここでは他ブロックからの参加者もあった。

また2月の研究会では理事会からの「革新と創造への提言」を受けて進められた。これによりブロック会員の活発な討議が行われ、学会の活性化へ向けて、建設的な意見が出された。

(1) 第21回研究会

平成7年9月30日(土) 東京家政学院短期大学が当番校になり、セミナープラザさずかけ台を会場に、94名の会員が参加して開催された。

研究発表に先立ち、モービル石油株式会社広報渉外部広報課統括課長、太田颯衣氏に「オフィスにおける新しい秘書像」

と題して講演していただいた。研究発表は下記の通りである。

・小野塚久枝先生 (東京家政学院短期大学) 「女性労働に対する期待の変化と秘書教育——経済発展の経過より探る——」

・土屋支曜子先生 (バイエル・三共株式会社) 「レストランの中の秘書たち——秘書の存在感を考える——」

・宮田篤先生 (青森中央短期大学) 「秘書と自己啓発」

・的場佳子先生 (日米会話学院) 「相対学習方式を利用した面接指導」

・三井加寿恵先生 (東京工芸大学女子短期大学部) 「秘書実務演習において開発を試みている能力」

・岡田小夜子先生 (高崎商科短期大学) 「儀礼文書の前文と末文の変遷について」

・四之宮玲子先生 (日本大学短期大学部) 「秘書の日常業務に関する調査報告I——モチベーション要因——」

・原口正行先生 (厚木外語ビジネスアカデミー) 「情報処理教育の一環としての統計学演習の実施について」

・金子章予先生 (文理情報短期大学) 「日本における秘書の現状と将来像——アメリカにおける秘書の歴史との比較ならびに調査結果・考察に基づいて (中間報告)——」

(2) 第22回研究会

平成8年2月19日(月) 産能短期大学が当番校になり、アルカディア市ヶ谷を会場に63名の会員が参加して開催された。

今回の研究会はテーマ「新たな展望をめざして」のもとにディスカッションを中心に行われた。ディスカッションに先立ち、富士ゼロックス総合教育研究所開発部部長、小野絃昭氏に「キャリア開発の考え方」と題して、講演していただいた。

次に理事会からの「革新と創造への提言」を受けてパネル・ディスカッションが行われた。
 テーマ：研究の拡大と深化——学会名称をめぐって——
 座長：森脇道子
 メンバー：堀江光、佐藤啓子、大宮登、佐藤東九男、畑中国明

引き続き、ブロック会員によるグループ・ディスカッションが7グループに分かれて行われた。学会名称変更のメリット・デメリットや専門部会の設置などの観点を中心に熱心な討議が行われた。(風戸修子記)

中部〈東海・北陸〉ブロック



今年度の研究会は、東海分会・北陸分会の合同研究会を、平成8年1月6日～7日、浜松市のアクトシティ浜松・コングレンスセンターで、他ブロックからの参加も含め、52名の参加者で開催した。

研究会は、先ずリーダーの吉田寛治先生から開催の挨拶、併せて本学

会の動向、また6月の第15回全国大会での研究発表の取扱い方や基本姿勢などの説明がなされた。さらに、当ブロック研究会の運営委員会の報告、および計画や運営方針などの報告がなされた。

続いて、以下のような内容であった。

◆ディスカッション

『革新と創造への提言』を掲げ、本学会の名称変更を含めた新しい方向を探るためのディスカッションが、島名正英先生の司会によって行われた。

まず、吉田寛治先生より理事会の提案について、本学会の成り立ちから今日に至るまでの流れと課題、将来展望などを踏まえ、新しい方向への有り様について練々説明がなされた。

さらに、中村健壽が『提言』の持つ意味の重大さを、理解し納得するに至るまでの自らの思考過程を吐露し、学会としての問題認識の重要性、あるいは秘書学の今後などを含めて説明した。

また、佐々木怜子先生が本学会の評議員としての立場から、学会の抱える問題点、発展性、将来性などを説明、指摘された。会長名による提言書や、これら説明を得て、熱を帯びた質疑応答が展開されたが、『提言』は多くの出席会員の理解を得るところとなった。

このディスカッションは、本学会の名称の変更ということに止まらず、その目的や他の学問領域との関わり方など根本的な問題にも及ぶものであり、それは参加者一人ひとりにとっても、自らの研究の方向性や教育の在り方などを、改めて問いかけ、見直す機会ともなった。

◆研究発表

続いて、北潟克輔先生、水口美知子先生、佐々木怜子先生、河野久子先生の司会で、次の11研究の発表があった。

- ① 「中国における紙による文書の原初をめぐって」中村健壽
 - ② 「企業小説にみられる秘書について」織田善悦先生
 - ③ 「秘書業務のOA化の現状と授業内容検討の必要性」河村真澄先生
 - ④ 「韓国の企業秘書」島本みどり先生・水谷啓子先生・森田園子先生・油谷純子先生
 - ⑤ 「個人と組織のかかわり方について」戸田昭直先生
 - ⑥ 「秘書イメージの発達的变化に関する研究」内山伊知郎先生・中村健壽・加藤宏美先生
 - ⑦ 「秘書の資質に関する研究——望まれるパーソナリティについて——」國田千恵子先生・福田一美先生・真田弥生先生・辻典子先生
 - ⑧ 「短大における秘書学についての学生評価の実証報告」今泉志弦子先生
 - ⑨ 「秘書固有の業務の存在について」柴山正先生
 - ⑩ 「秘書実務における交流分析の応用(その2)——対話演習結果の分析と授業案の再構築」菱田陽子先生・野口喜美代先生
 - ⑪ 「ノンバーバルコミュニケーションについて」永井孝男先生
- 以上の研究発表は、外国の秘書の実態調査を追求し、あるいは秘書学教育の方法論を論じ、さらには秘書の本質に迫ろうとするなど、研究対象は広範囲に及び、興味深いものであった。

◆懇親会

第1日目には、研究会終了後に島名正英先生の司会で、山本節子先生による乾杯の発声を皮切りに懇親会が開かれた。45名が一同に会して旧交を温めたり、発表者に質問したり、また研究・教育の情報交換をしたりと、和やかな雰囲気の中で、有意義な一時を共有することが出来た。(中村健壽記)



近畿ブロック



本ブロックは、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災で大きな影響を受けました。家が全壊・半壊された方、九死に一生を得られた方もおられました。復旧に向かっておりますが、心の傷は仲々いやされなようです。

こういった訳で、春分の日に予定しておりましたブロック研究会は会場も予約しておりましたが、中止

しました。

一年ぶりのブロック研究会は、被災地神戸のど真中、兵庫県立女性センターで56名の出席をえて10月14日に行いました。

総会で、昨年度の活動報告、会計報告があり承認されました。今回は女性センターをお借りしましたので、同センターの紹介を行っていただきました。そのあと、神戸市西区にある郵政省通信総合研究所関西支所知識処理室長の伊藤昭氏に、「電子秘書——未来のヒューマン・インターフェイスに向けて——」と題して講演していただきました。むづかしい題なので判りにくいかと懸念していましたがわかりやすく説明していただきました。とくに人間と計算機の違いに力点をおいて話をしていただき、現在研究中の電子メール利用支援システムの音声ガイダンス、音声コマンドについて詳しく述べていただきました。

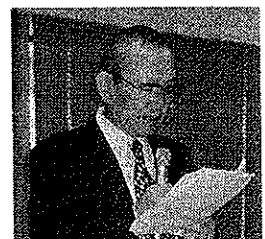
個人研究発表は、4人でした。神戸学院女子短大の小原将温先生は「秘書の資質についての一つの考え方」と題し、ユ

ニークな秘書資質論を発表されました。結論は、「秘書の資質は経営者の資質とニアリー・イコールで、違うのは立場と責任の大小だけ」というものでした。京都YMCAの河原和英先生は「全体と部分——経営管理過程からみた秘書」と題し、経営管理過程を通して、その中の上司と秘書の役割分析を発表されました。滋賀女子短大の高橋尚美先生は「OA機器操作におけるタッチタイプの必要性」と題し、タッチタイプの重要性を滋賀女子短大における実践にもとづいて発表されました。大阪キリスト教短大の林雄太郎先生は「秘書の非定型業務詳説——防火管理業務と地震対策」と題し、今回の震災の体験をふまえて、危機管理の必要性を強調されました。分科会は、学会の改称について、和野内会長の「日本秘書学会の新たな発展のために——革新と創造への提言——」を配布して、それに現在の諸情勢を加えて説明しました。その上で皆さんの御意見をいただきました。しかし、時間が短かったので十分うかがうことができなかつたかと案じております。次回も継続してお聞きするつもりでおります。

ところで、今次震災は、秘書学にとっても大きな示唆を与えてくれました。

一点は、秘書業務におけるノン・ルーチンワークのうち危機管理の重要性を教えてくれたことです。

もう一点は、在来線も、新幹線も杜絶してしまい、西から大阪方面へ行くためには、代替交通機関を利用しなければならなくなりました。



一番多かったのは、JR灘駅において、代替バスでJR住吉駅へ行くものでした。姫路から播但線で和田山に出て、山陰線、福知山線で行く方法、加古川から加古川線で福知山線谷川に出る方法、姫路から代替バス（中国道経由）で福知山線の三田に出る方法、姫路から神戸・大阪またはまっすぐ大阪へ航

路で行く方法等が行われました。勿論、岡山空港、大阪空港、関西空港へ航空便が増便されたことはいうまでもありません。日頃、代替交通など考えなかった我々に格好の教材を提供してくれました。これらの教訓が授業で生かされることを望んでいます。（福永弘之記）

中国・四国ブロック

1. ブロックの運営動向
役員改選が行われ、岡田栗先生（川崎医療短期大学）に代わり、胡義博先生（鈴峯女子短期大学）が新しいサブ・リーダーに推薦され、承認がなされた。本年度は、新体制のもとで、運営されることになった。長年にわたる岡田先生のご功績に対し謝意を表したい。



2. 研究活動

第12回ブロック研究会は、平成7年10月14日（土）13:00～19:30、15日（日）9:00～12:00の両日、高松市のリーガホテルゼスト高松を会場として、高松短期大学の山野邦子先生をはじめ関係の先生方のお世話により開催された。参加者は43名、研究発表は1日目に11件、2日目に3件、合計で過去最高の14件にもなった。秘書の専門性、能力開発の試み、歴史的アプローチ、インターネットを導入した実務教育、日本の経営の実務教育、卒業生を対象とした実態調査等、今回も幅広い分野からの研究発表が行われた。

2日目の研究発表後、昨年に引き続きシンポジウム形式の討論会が実施された。今回のテーマは、「新たな展望をめざして」というもので、このテーマについては、1日目の研究発表が終了した時点で、和野内会長の「日本秘書学会の新たな

発展のために——革新と創造への提言——」と題した一文がブロックリーダーの森貞俊二先生により読み上げられ、意図するところが説明されていたこともあって前日の懇親会の席上でも熱心な討議が繰り広げられていた。まず、森貞俊二先生より、秘書学会の15年の歩みを振り返り、それなりの成果を挙げてはきたものの、学会設立当初のような迫力ある研究姿勢が近年頃に薄れ、重複研究や現状維持的傾向に加え、社会システム、雇用システム等の大きな変化による大学での職業教育・実務教育の見直しが問われ始めているといった状況の説明がなされた。その後、スピーカー（運営委員5名の先生方と、当番校の先生1名）により、学会の名称変更を含め秘書教育・研究のあり方、実務教育の新しい方向づけについて一人10分間ずつの提案がなされた。スピーカーの先生方全員は、多少のニュアンスの違いはあるものの、学会名称変更の方向はやむを得ないであろうとの意見であった。研究発表の件数が多く、シンポジウムに十分な時間が確保できたとは言えないが、参加された先生方の熱のこもった討論に引き込まれた会であった。

（渡辺和枝 記）



九州・沖縄ブロック



1. ブロックの運営動向

本年度の運営委員会において第18回ブロック研究会の発表者、第19回研究会の場所、日時、発表者、第20回研究会の場所、日時等を決定し、またブロック会報の編集・発行等を行った。

2. 研究会活動

— 第18回研究会 —

期 日：平成7年2月25日（土）
場 所：福岡女子短期大学（福岡県太宰府市）
出席者：27名（内韓国側3名）
田中友幸（福岡女子短期大学）ブロックリーダーの挨拶、坂本一登（福岡女子短期大学）事務局担当によるスケジュール説明の後、研究発表に移った。

佐古俊郎先生（香蘭女子短期大学）の司会により「ドイツの秘書団体BDSが作成した秘書の職務記述書について」というテーマで佐藤昭雄先生（近畿大学九州短期大学）が、ドイツ秘書教育制度の特色について7項目を指摘、さらに秘書団体が作成した職務記述書の意味について発表を行った。

続いて北原康司先生（佐賀女子短期大学）の司会、徐俣煥先生（釜山女子専門大学）の通訳により鄭瑛宇先生（釜山女子専門大学）が「政治秘書教育プログラム——事例を中心として——」と題し発表した。主な点は、政治秘書についての教育目標、教育方法、教育過程、および教育効果などである。

研究会最後の懇談会では、平成7年6月の第14回全国大会への「ブロックからの提言について——能力開発の可能性とは（基本的な普遍性をもつ能力の開発について）」と題し、リーダーの司会により光岡延幸先生（福岡女子短期大学）が全国大会での提言者として、秘書に必要な普遍的な能力について発表し、発表に対しての意見やそれ以外の提言を求めた。研究会終了後、会場を市内に移して懇親会を開催し、参加者相

互の親睦を深めた。

— 第19回研究会 —

期 日：平成7年10月7日（土）
場 所：沖縄キリスト教短期大学（沖縄県西原町）
出席者：18名

今回のブロック研究会は、伊志嶺博志先生（沖縄キリスト教短期大学）の多大なご尽力により沖縄県（通算して2回目）にある沖縄キリスト教短期大学において開催することになった。

初めに光岡延幸先生の司会により木原すみ子先生が「秘書とデータベース教育について」というテーマで、身近なデータベースの利用や作成演習、大規模なデータベースを利用し検索を試みた教育について具体的な内容と結果を発表した。

続いて北原康司先生の司会により「プラスイメージの作り方」と題して、樋口榮子先生（佐賀短期大学）が、プラスイメージの作り方、プラスイメージ度指標、身だしなみの目安等について発言した。

さらに伊志嶺博志先生の司会により中村長哉先生（福岡女子短期大学）が「台湾統治における補佐について——民政=総務長官を中心として——」というテーマで、台湾総督および民政局長・民政長官・総務長官、後藤新平の人脈、総務府の機構等について発表した。

研究会最後のシンポジウム「日本秘書学会の新たな発展のために——革新と創造への提言——」において、座長・パネラーの田中友幸先生が、まず初めに提言を行い、その提言に対する意見やそれ以外の提言を求め、次の研究会でも同じテーマで開催することにした。

学内秘書教育関連施設の見学の後、富田佑未先生（マネージメントリード）のお世話によりホテルシティコートで懇親会を開催し、秘書教育、秘書学について更なる懇談を行い、無事全日程が終了した。

（坂本一登 記）



ブロック研究会での研究発表一覧

【北海道】

- 「非定型業務能力の必要性和その育成フレーム」 北崎 寛 (静修短期大学)
「現代経営学理論と「秘書」との関連性について」 佐々木邦子 (静修短期大学)
「ビジネスにおける作成文書について」 佐藤 善也 (北海道文理科短期大学)
「時代とともに変わる秘書教育——秘書実務演習オリジナルテキスト作成の過程から」 榎 明美 (札幌聖心女子学院)
「ビジネスアウェアネスの研究に向けて」 和田 佳子 (国学院短期大学)
「ビジネスアウェアネスの研究に向けて」 乳井 克憲 (静修短期大学)

【関東・東北】

- 「女性労働に対する期待の変化と秘書教育——経済発展の経過より探る」 小野塚久枝 (東京家政学院短期大学)
「リストラの中の秘書たち——秘書の存在感を考える——」 土屋支曜子 (バイエル・三共株式会社)
「秘書と自己啓発」 宮田 篤 (青森中央短期大学)
「相対学習方式を利用した面接指導」 的場 佳子 (日米会話学院)
「秘書実務演習において開発を試みている能力」 三井加寿恵 (東京工芸女子短期大学部)
「儀礼文書の前文と末文の変遷について」 岡田小夜子 (高崎商科短期大学)
「秘書の日常業務に関する調査報告Ⅰ——モチベーション要因——」 四之宮玲子 (日本大学短期大学部)
「情報処理教育の一環としての統計学演習の実施について」 原口 正行 (群馬県立総合情報センター)
「日本における秘書の現状と将来像——アメリカにおける秘書の歴史との比較ならびに調査結果・考察に基づいて(中間報告)——」 金子 肇子 (文理情報短期大学)

【中部(東海・北陸)】

- 「中国における紙による文書の原初をめぐって」 中村 健壽 (静岡県立大学短期大学部)
「企業小説にみられる秘書について」 織田 善悦 (長岡短期大学)
「秘書業務のOA化の現状と授業内容検討の必要性」 河村 真澄 (岡崎女子短期大学)
「韓国の企業秘書」 島本みどり (東邦学園短期大学)
「個人と組織のかかわり方について」 戸田 昭直 (静岡県立総合情報センター)
「秘書イメージの発展的变化に関する研究」 内山伊知郎 (同志社大学)
「秘書の資質に関する研究——望まれるパーソナリティについて——」 國田千恵子 (金沢女子短期大学)
「短大における秘書学についての学生評価の実証報告」

- 「秘書固有の業務の存在について」 柴山 正 (名古屋女子大学短期大学部)
「秘書実務における交流分析の応用(その2)——対話演習結果の分析と授業案の再構築」 菱田 陽子 (北陸学院短期大学)
「ノンバーバルコミュニケーションについて」 永井 孝男 (浜松短期大学)

【近畿】

- 「秘書の資質についての一つの考え方」 小原 将温 (神戸学院女子短期大学)
「全体と部分——経営管理過程からみた秘書」 河原 和英 (京都YMCA専門学校)
「OA機器操作におけるタッチタイプの必要性」 高橋 尚美 (滋賀女子短期大学)
「秘書の非定型業務詳説——防火管理業務と地震対策」 林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)

【中国・四国】

- 「秘書に専門性は存在するのか？」 村上 哲大 (土佐女子短期大学)
「能力開発の試み(その2)」 磯田 圭子 (安田女子短期大学)
「女性の能力開発——イギリスの女性たちの提言を参考に——」 石井 三恵 (広島女子短期大学)
「ゴンチャロフの秘書時代の功績」 藤田 雅子 (広島女子短期大学)
「女性のエンパワーメント——第4回世界女性会議で聞かれたもの」 川瀬 啓子 (安田女子短期大学)
「経営組織における秘書の位置づけ——リーダーシップと補佐役の視点から——」 堀 正久 (四国大学)
「日本の経営の構造変化に伴う秘書教育の見直し」 山本 慶子 (香川短期大学)
「マルチメディア社会に向けての秘書情報教育の展望と工夫」 川端 淑子 (山陽学園短期大学)
「インターネットを利用した遠隔地域間協同作業について——秘書教育における情報教育の視座より——」 吉田 行宏 (安田女子短期大学)
「秘書職務とインターネット」 町野 吉甫・新長 章典 (山陽女子短期大学)
「秘書課程学生の期待と評価——アンケート調査より——」 宮本 幸治・樋口 紀子 (徳光女子短期大学)
「雇用システム変革期に求められる実務教育」 桐木 陽子・渡辺 和枝・森貞 俊二 (松山東雲短期大学)
「本学秘書科卒業生の意識調査と秘書実務教育」 山野 邦子・正岡 利朗 (高松短期大学)
「オフィスワークの変化と秘書教育のあり方——グループウェアを中心として——」 佃 昌道・林 守孝 (高松短期大学)

【九州・沖縄】

- 「ドイツの秘書団体 BDS が作成した秘書の職務記述書について」 佐藤 昭雄 (近畿大学九州短期大学)
「政治秘書教育プログラム——事例を中心として——」 鄭 瑛宇 (釜山女子専門大学)
「ブロックからの提言について——能力開発の可能性とは(基本的な普遍性をもつ能力の開発について)——」 光岡 延幸 (福岡女子短期大学)
「秘書とデータベース教育について」 木原すみ子 (九州龍谷短期大学)
「プラスイメージの作り方」 樋口 榮子 (佐賀短期大学)
「台湾統治における補佐について——民政=総務長官を中心として——」 中村 長哉 (福岡女子短期大学)

Table with columns for regional leaders and committee members. Includes titles like '平成7年度ブロックリーダー' and 'サブリーダーおよび運営委員'.

Table with columns for association members. Includes titles like '平成7年度入会会員(平成8年2月20日現在)'. Lists names and their respective institutions.